

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 7年 5月 1日

事業所名 ばびるすきっず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である		○		職員が足りていない為、求人募集している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		視覚的ツール等取り入れている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に情報交換を行う。モニタリングを行い、個別支援計画を作成し職員に周知している	継続して取り組む。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者との情報交換ソフト「HUG」にて日頃より情報交換を行い、意見・要望等を改善に活かしている	評価表を活用することにより、改善目標にしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページ上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価も検討もしていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月1回研修を行い、資質向上に努めている。	待防止や発達障害への知識・支援の在り方等研修を行っている
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		聞き取り調査の貴重な時間を大切にしている	保護者の意見やお子様の意見を踏まえた計画書を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールは皆で共有し意見交換している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		長期休暇に合わせて活動プログラムを話し合っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラムを固定化しないようスケジュールを作成している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		時間を決めて課題を行ったり。長期では午前中に課題時間を決めて午後からは集団行動できる課題を決めている。	午前、午後と職員の配置を変えて行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している		○	利用児童の個人差に応じた集団活動の実施に出来ない	今後も検討していく必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		業務日誌や連絡ノートを活用し、ミーティングを行っている	支援内容等ミーティングをして職員に共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りを行っている。	振り返りを行い、次への活動や支援の仕方に見直しを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		HUGに日々の活動記録を丁寧に入力している	活動記録は職員間で共有し、今後の支援に活かしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回モニタリングを行い、見直しを行っている	保護者様や本人に要望の確認を行い支援計画を作成している。
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○	複数までの組み合わせが出来ていない。	今後も検討していく必要がある。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が会議や電話等で参加している。	会議での情報は職員間で共有している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		自宅の送り時変更や確認をメールやHUGで確認を行い連絡調整に努めている。行事予定の確認や学校側と情報交換を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		対象児童はご利用なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		情報を求められた際に的確に伝えられるように、日ごろから活動内容をまとめている。	職員間で支援内容や成長過程の変化は共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在対象児童はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ご利用児童の保護者様より、子育ての相談があった際、保護者の了承を得たうえで児童相談発達支援センターに助言を求めている。	相談支援センターとの関係をとっていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	当所以外の子供との活動は現在行えていない。	今後も検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		協議会へ参加は出来ていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		HUGに日々の活動記録を丁寧に入力している。家族様の要望等対応している。	保護者からの発信も多く受け止められるように努めていきたい。

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者からの子育てに関する質問等は、できる限りの時間と情報の提供に努めている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学时や契約時に説明を行っている。	家族様が分かりにくい内容や質問等は丁寧に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			子育ての悩みに対する相談等は、時間を設けて当所にて連携支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会を希望されていない方が多い。	今後、検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理責任者が主体となり対応している。	迅速かつ適切な対応を心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		会報等の発行は行っていない。
	35	個人情報に十分注意している	○		契約時に同意を得て留意している。	外部への情報発信は最大限に配慮している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カード等の視覚化で表現を行っている。	個々に合わせた支援のミーティングを行う。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域交流には至っていない。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		契約時に説明を行っている	説明が出来ていない保護者様には随時、説明を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回避難訓練を行っている。	避難訓練の告知を1週間前より施設内に提示している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に2回研修会を行い意見交換している。	日頃から職員間で注意し合える環境づくりに配慮している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束に関する同意書や説明を行っている。	現在は、身体拘束を行うケースはあるが今現在は行っていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時にアレルギーに関する情報も記入して頂いている。	職員間で情報を共有し合い対応を留意している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書は綴られている。	研修会等で情報を共有している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。